

日本地衣学会 No.129

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	活動報告	481
	第39回青空地衣教室（神奈川県横浜自然観察の森）の報告／安齊 唯夫・ 小山内 行雄	481
	第39回青空地衣教室（in 横浜）に参加して／越智 典子	483
	第39回青空地衣教室（横浜）で観察された地衣類／原田 浩・安齊 唯夫・ 越智 典子・小山内 行雄・坂田 歩美	484

活動報告 Reports of the JSL Activities

第39回青空地衣教室（神奈川県横浜自然観察の森）の報告

Report of the 39th Outdoor School on Lichens at Shizenno-Mori, Yokohama-shi, Kanagawa-ken, central Japan
(25 October 2014) / by Anzai T. & Osanai Y.

>>>>> 安齊 唯夫・小山内 行雄：地域活性化委員会関東・中部、信越

神奈川県横浜市において地衣学会主催第39回青空地衣教室が開催されましたので、報告いたします。

開催日：2014年10月25日（土）

開催場所：横浜自然観察の森

（神奈川県横浜市栄区上郷町）

講師：原田浩氏（千葉県立中央博物館）

参加者：17名（講師，施設関係者2名含む）

* * *

「横浜自然観察の森」は、横浜市内とはいっても三浦半島に含まれそうな地理的位置にあります。国内に10箇所ある「自然観察の森」の中で最も古い歴史をもつ森とのことで、横浜市内最大の緑地です。今回の青空地衣教室は、細やかな保護管理のもと、豊かな自然が維持されている「横浜自然観察の森」で開催いたしました。

当日は、降水確率0%という青空地衣教室の看板通りの天候に恵まれました。

地衣類の観察会は初めて、という方が6~7名、また、施設のレンジャーや友の会のメンバーの方も参加され、世話人としても嬉しい観察会となりました。

700haという広い森です。全域を回り切れるはずもありません。そこで、下見を重ね、飽きさせず、しかも適度な速度で歩いていただくという厳選した地衣類観察コースを探し出しました。いわば、起承転結のある地衣類観察会を目指したのです。

地衣観察の「起」は炭焼き窯の入口、掲示板の屋根です。朽ちた板葺きの上に、広い園内でもここでしか会えないハナゴケ類を観察です。やはり、ハナゴケは地衣観察の華、お見せできないのは世話人の恥・・・

歩き出すと「承」に向かう前に早くも番狂わせの倒木が現れ、ここでいったん痾状地衣の深い闇の世界に誘い込まれました。何とか倒木から皆さんを剥がしとり、「承」へ。クヌギの林では、びっしりと着生した大形の葉状地衣や隠れるように着生するニセザクロゴケ属の鮮やかな子器もお見せすることができました。ここではレンジャーの方が地衣擬態のシラホシコヤガを見つけ出し、するどい観察眼に敬服しました。次は、地衣観察の「転」。大量のアオバゴケです。下見で越智さんが発見しました。落葉の1枚1枚にことごとく生葉上地衣のアオバゴケが着生している、という宝の木です。ここで少々下見の時の話です。世話人3名は、様々な形態を見せるアオバゴケに夢中になりました。ちょうど着生木の下にあったベンチに座り込み、テーブルの上に地衣付きの落葉を並べ、飽くことなくルーペで覗いたのです。その際小山内が持ち込んだデジカメは、焦点を自動ですらした複数枚の画像から焦点のあった部分を自動で合成して撮影するという機能がありました。つまり、凹凸のある地衣体の全てに焦点が合った写真が撮影できる可能性があります。

その上、このデジカメのLEDライトガイドは、接写しても地衣が白く反射することがないのです。これまでのデジカメのLEDライトはどうしても光が強すぎたのですが、それも解決できるカメラでした。マツゴケですが、撮影した画像（図1）を紹介します。上の画像がシャッターを押したとき最初に保存される画像、下が自動深度合成して保存される2枚目の画像です。マツゴケの粉芽塊にピントを合わせていますが、深度合成された下の画像では粉芽塊だけでなく奥の裂片までピントが合っています。どうでしょう、地衣撮影に最適なデジカメではないでしょうか。

カメラ名：オリンパス STYLUS TG-3 Tough
顕微鏡モード：深度合成、フォーカスBKT
ライト：LEDライトガイド LG-1

閑話休題、デジカメ紹介が長くなってしまいました。が、いよいよ地衣観察の「結」。細い幹にひっそりと生きているセンシゴケです。

関東平野周辺では丹沢、箱根あたりまで足を伸ばさ



図1. マツゴケの撮影画像。下は深度合成されたもの。

ないと出会えないかと思えます。植栽木として移入されたようでもありません。標高100m程とはいえ山並みの続く三浦半島ですから、昔はセンシゴケも沢山見られたのかもしれませんが、ひょっとすると、横浜・鎌倉一帯でこの1個体だけ生き抜いてきたのかもしれない、と感動してしまいます。横浜自然観察の森での地衣劇場もいよいよ閉幕です。

盛り上がった地衣熱を冷ましていただくために、地面に這いつくばっていただきハコネイボゴケ、ヘトリゴケなどを観察し、最後は園内には珍しい置石でアカハラムカデゴケを覗き込んで1日の観察を終えることが出来ました。

開催にあたっては、この森を管理されている日本野鳥の会の皆さんに大変お世話になりました。ここで感謝の意を表したいと思います。

第39回青空地衣教室 (in 横浜) に参加して

Travel note of the 39th Outdoor School on Lichens at Shizenno-Mori, Yokohama-shi, Kanagawa-ken, central Japan (25 October 2014) / by Ochi N.

2014年10月25日(土)、野外観察にもってこの秋晴れの日、千葉県立中央博物館の原田浩先生のご指導をいただきながら「横浜自然観察の森」の地衣類を愛で歩きました。16名の参加者にはおなじみのお顔もあれば、初めましての方たちもおられました。地衣に興味をもって初めて参加した、という自己紹介を聞くと、新たな同好の士を得たことで、観察会が華やくがします。開催地のレンジャーの方と友の会ボランティアの方もお一人ずつ参加しておられたので、園内にすむ生き物について教えていただいたり、樹皮に残されたタイワンリスの食痕を見上げたりできたのも望外の喜びでした。

横浜自然観察の森は30年ほど前に日本初の自然観察の森として開園したそうです。湿地に草原に雑木林に、とさまざまな自然環境を抱えた地です。隣接する横須賀市に住んでいるので、ちょっと足を伸ばせば行かれるのですが、二年前に初めて訪れるまでは、これほど豊かに自然環境を残した公園だとは知りませんでした。ここならさまざまな地衣類が見られるかもしれない、と思いながら、その時はアオゲラのつがいにすっかり目を奪われて、あまり地衣を見つけることができませんでした。世話人の安斉さんが、下見をしたところ地衣類がたくさんある、と報告なさったときは、さすが、見る目をもった人は違う、と感心しました。

その後、安斉さんと小山内さんが下見をすると聞き、同行させていただきましたが、クヌギ林では樹幹をびっしりと被うウメノキゴケ、マツゲゴケ、ナミガタウメノキゴケに驚き、再度の下見でザクロゴケのようなものも見つかり(観察会で二セザクロゴケと教えていただきました)、たった一個体のセンシゴケが、いったいどこからどうやって来たのか、なぜ他にないのか、と首を傾げたりしました。何より昼食をとりながら、ベンチ付きテーブルの下に散り積もった葉を何気なく拾ったところ、美しい葉上地衣を見つけたのにびっくりしました。なんと、拾う落ち葉という落ち

>>>> 越智 典子: 千葉県立中央博物館市民研究員

葉に状態のいい葉上地衣が、クモの巣状や円盤状にくつもついていて、うまくすれば成長過程をずらりと並べて見られそうなほどでした。

観察会で、これらの葉上地衣がアオバゴケの仲間、それがついた葉は、一本のタブノキの大木から落ちたものだということがわかりました。下見で見ていた地衣類を観察会本番で原田先生が同定していただくことの楽しさに加え、そんな地衣がついていましたか?と驚く楽しさもありました。さすがに16名もの目があると、下見で見落としした地衣類が見つかります。ニセマキミゴケは初めて見ました。離れてみると樹皮にまぎれてしまいましたが、顔を近づけると淡い緑の痂状の地衣体があり、ルーペをのぞいたとたん、ひと粒だけついた、ふっくらとした薄紅の子器が目飛びこんできました。何ととっても、原田先生の目が半端ではありません。毎回のことながら、初心者向けの地衣類解説からシラチャウメノキゴケの見分け方といったディープな解説までをこなしつつ、「ここに〜が」という指の先をしっかりと覚えておかないと見失うほどの渋い地衣類を教えてください。地衣の名前を野帖に書きこみ、ルーペでのぞいて写真を撮って、というのが、追いつかなくなるほどでした。しだいに、この自然観察の森は地衣の玉手箱なのではないか、と思えてきます。そしていつも通り、まだあるのに・・・と名残惜しい気分の中、予定の終了時刻を迎えることになったのでした。

お世話になった原田先生、安斉さん、小山内さん、楽しい時間を共有させていただいた参加者のみなさん、ありがとうございました。

じつは今回初めて、観察会の復習をする機会がありました。下見のメンバーでもう一度同じルートを辿ってみたのです。ダイダイサラゴケを始め、いくつか新たな地衣が見つかりました。横浜自然観察の森は、ほんとうに地衣の玉手箱かもしれません。

第39回青空地衣教室（横浜）で観察された地衣類

Lichens observed during the 39th Outdoor School on Lichens at Yokohama, central Japan (25 Oct. 2014) /
by Harada H., Anzai T., Ochi N., Osanai Y. & Sakata A.

>>>> 原田 浩¹⁾・安齊 唯夫²⁾・越智 典子³⁾・小山内 行雄^{2・3)}・坂田 歩美⁴⁾：

1) 千葉県立中央博物館, 2) 地域活性化委員会, 3) 千葉県立中央博物館市民研究員, 4) 千葉県立中央博物館共同研究員

観察リスト

場所：神奈川県横浜市栄区上郷町／横浜自然観察の森

観察日：2014年10月25日

<i>Arthonia</i> sp.?	ホシゴケ属の一種?	<i>L. pulverulenta</i>	コナイボゴケ
<i>Arthothelium</i> sp.	ゴマシオゴケ属の一種	<i>Lecidella sendaiensis</i>	
<i>Bacidia hakonensis</i>	ハコネイボゴケ	<i>Lepraria</i> spp.	レブラゴケ属の一種 (3種類)
<i>Canoparmelia aptata</i> or <i>C. texana</i>	シラチャウメノキゴケ あるいはタナカウメノキゴケ	<i>Menegazzia terebrata</i>	センシゴケ
<i>Cladonia humilis</i>	ヒメジョウゴケ	<i>Myelochroa entotheiochroa</i>	クズレウチキウメノキゴケ
<i>C. ramulosa</i>	ヒメレンゲゴケ	<i>M. metarevoluta</i> ?	コフキチョロギウメノキゴケ?
<i>Dibaeis sorediata</i>	コナセンニンゴケ	<i>Opegrapha</i> sp.	キゴウゴケ属の一種
<i>Dirinaria appplanata</i>	コフキチリナリア	<i>Parmelinopsis minarum</i>	トゲウメノキゴケ
<i>Flavoparmelia caperata</i>	キウメノキゴケ	<i>Parmotrema austrosinense</i>	ナミガタウメノキゴケ
<i>Graphis</i> sp.	モジゴケ属の一種	<i>P. tinctorum</i>	ウメノキゴケ
<i>Hypotrachyna revoluta</i> ?	ハコネゴンゲンゴケ?	<i>Pertusaria pustulata</i>	オリーブトリハダゴケ
<i>Lecanora megalocheila</i>	ナミチャシブゴケ	<i>Phaeographis pruinosa</i>	コフキモジゴケ
		<i>Phaeophyscia rubropulchra</i>	コナアカハラムカデゴケ
		<i>Physciella melanchra</i>	ムカデコゴケ

ニュースレター 127号と128号 のページ数の訂正とお詫び

ニュースレターの127号と128号のページに誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

ニュースレター	誤りのあったページ数	訂正後のページ数
127号	471, 472, 473, 474	473, 474, 475, 476
128号	475, 476, 477, 478	477, 478, 479, 480

●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌 102号 378ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 102, p. 378 of this publication.

●*Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 129, pp. 481-484: eds. Kinoshita K., Komine M. & Harada H., published by *the Japanese Society for Lichenology*, 17 Aug. 2015.

日本地衣学会ニュースレター 129号

発行日：2015年 8月 17日

編集：木下 薫・小峰 正史・原田 浩

発行者・発行所：日本地衣学会

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3-35

関西大学 化学生命工学部 生命・生物工学科

微生物工学研究室

©2015 日本地衣学会 (©2015 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複写等は固くお断りいたします。